

美術科教育学会通信

1994年12月22日発行

美術科教育学会本部事務局

No. 15

〒184 東京都小金井市貫井北町4丁目1-1 東京学芸大学

美術科教育学研究室内 Tel.0423-25-2111(内)2856,2857,2858

FAX. 0423-21-3695

事務担当者からのごめんなさい

本部事務局総務担当 柴田 和豊

愛知教育大学から事務を引き継いで、ほぼ1年4ヶ月が過ぎました。その間の私の仕事を思い起こしますと、失念、失敗、思慮不足というような、ネガティブな言葉ばかりが浮かんできます(会計担当の増田さんや、心強い相談役の石川さんに関しましては、けっしてそのようなことはありません!)。事務局へは入会申込や、大会についての案内、学会誌についての問い合わせ等々が寄せられますが、私が担当したものの中には適切な処理をしていないものが少なからずあるのではと、いつも不安に思っています。

そのような状態の最大の原因は、私の事務的能力の欠如にあることはいうまでもありません。ただ、弁解がましいことを言わせていただきますと、二つの重要な職責が重なったための影響もあるように思えます。総務担当の他に、学会誌編集委員長の役割が加わりますと、完全にオーバーワークになってしまいます。理想は、学会員が1,000名位までに増えて、週2日でも事務専従の方をお願いできるようになることですが、なかなか道は険しいようです。

とはいえ、二つの役割を担当させて頂くのも貴重な体験とも思いますので、それらの仕事に関わって気になることを、いくつか記したく思います。以下に箇条書きにします。

- 組織上の最大の懸案はやはり会員数の拡大です。拡大へ向けての各会員の協力をお願いします。あるいは、日本美術教育学会などとの関係や合同も、より現実的に検討すべくもかもしれません。
- 会員が伸び悩んでいる原因の一つに、院生の会員が、大学院の修了と同時に、当学会からも抜けていくことがあります。現場に出てからもメリットのある会の在り方を、一層考えていく必要があります。「出前シンポ」「研究部会」などがより定着していけばと思っています。
- 会の活性化を目指して、私が提案して始めたことに、イベント・出版情報のチラシを学会通信に同封して送るというサービスがありますが、これについての評価は完全に二分されています。「お互い知っているようで知らないから、良い」というものと、「売名行為につながる」という具合にです。私としましては、各地方で孤軍奮闘している特に若い会員の方をサポートできればと思って始めたのですが、いささか思慮が足りなかったようです。私の提案に応じて、チラシを寄せて下さった方に思わぬ迷惑をかけたかもしれません。お許し下さい。そのようなことで、今後は情報はできるだけ「通信」の中に織りこんだ形で掲載していこうと思っています。情報をお待ちしております。
- 6年度の大きな成果の一つは、学術定期刊行物発行のための公的助成が61万円獲得できたことです。それによって学会誌への投稿料が少し軽減されます。今後は研究集会開催の助成なども申請する予定です。会員の方々もいろいろな助成の情報、獲得できた補助金の成果などをお聞かせ下さい。
- 従来、「学会誌」の発行作業は大会開催大学が担ってきましたが、経費の節約、作業の合理化、大会開催大学の負担の軽減などの観点から、発行場所・印刷所を固定していく

必要があると思います。現在の取り組みとしましては、学会誌編集委員会、正副代表理事との協議を受けて、『アート・エデュケーション』を出している建帛社に発行委託の可能性を打診しています。経費を安くあげるためには、フロッキーによる入稿が欠かせませんので、執筆規定（入力規定）を今いちど洗い直して、簡単で実用的なものにする検討をせねばなりません。会員各位のお知恵を頼りにしています。

- 「学会通信」を充実したいと思っています。「書評」「論文紹介」「時評」などを盛りこんだより知的な紙面作りをしたいものです。徐々に拡大していきますので、積極的な投稿をお願いします。
- 若い会員の方々が学会運営に直接的に参加することが、学会を活性化する最大の熱源だと思います。そのためには、学会の仕事で動いて頂く際の交通費などをお支払いできるようにしたいものです。また類似したことで、アルバイト代の正当な支給も可能になれば願っています。そのことによって、院生の会員の方々にいろいろな仕事を委託することができ、当学会の存在を深く意識して頂けるのではと思っています。
- 大学の常といいましょうか「学会事務局に電話してもつながらる方が珍しい」というお思いを、お持ちではないでしょうか。もしつながらない場合には、自宅宛にもご連絡願えれば幸いです。遠慮なくご連絡下さい。電話、Fax.とも0425-76-8082（柴田）で、夜分が好都合です。
- いろいろな申込、問い合わせをしながらも、当方から連絡がないという場合には、申し訳ありませんが重ねて請求下さい。いうまでもなく悪意で当方から連絡をサボタージュするということはありません。しかし、うっかりミスはありえます。いつも、「思わぬミスをしていないか」と思いながら、事務にあたっている次第です。ごめんなさい。

学 会 役 員 の 改 選

来年3月の学会役員の任期満了を控えて、役員の改選選挙が行われました。12月5日を投票締め切り日とし、10日に東京学芸大学で榎原弘二郎、岡田匡史、金子一夫、長田謙一、長谷川哲哉、宮坂元裕、各氏の選挙管理委員と、立ち会い人の大橋皓也理事が参加して、開票が行われました。投票総数は157票（選挙人総数359名）で、有効投票数は152票、無効投票数は5票（締め切り日以後に届いたもの3票、7名以上の記載のあるもの2票）でした。開票の結果15名の選出理事が決定しましたが、その15名の新理事が12月23日に東京学芸大学に集まり、15名の補充理事と監事2名の選出にあたります。従いまして、30名の新理事と監事の紹介はその後の来年の学会通信で広報いたします。なお、新理事と新監事は来年の和歌山大会の総会で承認を受けた後、向こう3年間その任につきまます。

《第12回美術科教育学会公開シンポジウム》の案内 第32回沖縄県造形教育研究大会（那覇大会）にて開催

テーマ：造形教育の今日的課題－これからの造形教育に期待するもの－
パネリスト：宮脇理 近藤康太 与儀実 上原須美子 稲嶺成祐
日 時：1995年1月14日（土）
場 所：沖縄県那覇市壺屋小学校
問い合わせ先：〒901-21 沖縄県浦添市屋富祖2-13-1 仲西中学校内
沖縄県造形教育連盟事務局 金城安正
☎098-876-9368 Fax.098-876-9467

第 10 回 公開シンポジウム報告

第10回の「出前シンポ」は、東京都図工研究会・多摩図工研究会との共催で、「子どもと教師」をテーマに10月28日に田無市の向台小学校で行われました。現場からと大学からのパネラーの議論が「珍しく」(?)噛み合う熱気あふれるシンポとなりました。多摩図研の矢木先生から寄せられた文章を掲載し、その雰囲気的一端をお伝えしたいと思います。

「今回のシンポジウムの意義」

矢木 武（小平第五小学校）

今回のシンポジウムは、その成り立ちが従来のものとは大きく違っている。都図研大会等でも過去何回かシンポジウムを行ったことはあった。大学からのパネラーの参加もあった。しかし今回は、都図研（もちろん多摩図研を含めて）と、美術科教育学会という主に大学の研究者を中心にしたグループのタイアップにより、現場と研究者の両方が主体的に集まったことに大きな意義があった。従来この両者は互いに不信の関係にあったり、そうでなければ現場の追従といったパターンがほとんどであったように思う。これまで、大学の先生たちの発言が、なんとなく本質的な問題提起・研究より、体制的な形式論的な傾向が強いように感じられたのも（え、オレだけ？）そんな現れであるような気がする。その点今回の大学側3氏（上山浩、佐野寛、柴田和豊）はそれぞれに伝えたい事をはっきりもっておられたし、相互の本当のコミュニケーションを望んでいることが伝わってきた。翻って、都図研側のパネラー達もそれぞれに子ども達との独自の接点をもった方々であり、双方が立場を越えて、美術教育、いや教育全般、もっと広く人としての生き方についてかなり広い共通の「場」をもつことができたように思う。その結果がこのシンポジウムを活発なものとし、それなりのリアリティーを添えたと思われる。「子どもと教師の関係は従来のように物理的優劣による上下関係で良いのか」「子どもと教師の“ゆらぎ”の触れ合い」「深めようではなく、軽く、思わずやることが本当の表現」「今の時代に子ども観がもてるのか?」「美術教育は具体的に目標を持ち直す必要がある」等々大事な発言がいっぱい含まれている当日の実録レポートは、近いうちに都図研から発行されるはずであるので、是非一読してほしい。そして皆様の心の中でこのシンポジウムを続けて欲しい。我々もまた、このようなシンポジウムを今後続けられるとよいと考えている。その時はより多くの参加をお待ちしています。

部 会 関 連 情 報

前回の通信でお知らせしましたように、「アミューズ・ヴィジョン研究会」「基礎データベース部会」「国際研究交流部会」「美術教育史研究部会」「美術教育の課題と授業研究部会」の5部会が活動を始めています。その他には、阿部寿女会員（大阪女子短大）の積極的な呼びかけでメディア・映像問題を中心にした部会が設立準備中です。また佐藤賢司会員から「学会通信」4号の研究部会についてですが、非常に興味をもっています。ついては設立のための用紙をお送り下さい」という嬉しい連絡を頂けました。規約では、部会の代表は原則的に学会役員もしくは役員経験者になっていますが、その点については柔軟に対応したいと思いますので、若手会員からの積極的な提案を心待ちにしています。参考までに記しますと、データベース部会の代表には役員経験者でない会員が就いています。

来年3月の和歌山大会において、部会の時間をもちたく思っています。学会の日常活動を促進する目的が部会にはありながらも、部会構成員が一堂に会することはやはり簡単ではなく、そのために「部会タイム」を検討中です。但し、複数の部会に所属している会員が、複数の部会のミーティングへ出席可能なように、時間帯を設定できるかは微妙です。具体的なことにつきましては、大会事務局（和歌山大）にお問い合わせ下さい。

第 1 1 回公開シンポ(宮崎)を振り返る

上山 浩(宮崎大学)

「まず、私ごとき若輩者が参加でき、しかも発言にきちんとレスポンスを返して頂けるようなシンポジウムに出席できたことを、心から感謝します!……(中略)……今回シンポジウムで、特に参考になったと感じたのは、次のような点です。まず、基礎データベースの理念を、実際のネットワーク利用を見ることで、はっきりと『こんなことができる』『こういうことができそうだ』というように考えることが出来るようになりました。パソコン自体に対して、あまり関心のない我が学科の友人たちに説明する時はもとより、これからの美術教育の方向性のようなものを直に感じる事ができました……」。

昨年11月12日宮崎にて、第11回美術科教育学会公開シンポジウムが「基礎データベース構築について」をテーマに開催された。上の文章は、大分から参加されたある学生さんからのメールの抜粋。もちろん、これは都合のいい部分を抜き出したものに過ぎないが、このメッセージには出前シンポの出前たる意義がにじみ出ているのではないだろうか。

シンポジウムの参加者は、代表理事・宮脇氏、理事・竹内氏、その他隣県より学部・附属学校教員、院生、学部生など少人数。特定のパネラーによるのではなく全員参加のディスカッションとなった。また、静岡大学の木村氏はパソコン通信により参加された。

具体的な内容は、データベース・ネットワークに関するプレゼンテーションと、学会データベースの基本的性格に関する討議。

プレゼンテーションでは、パソコンを前に、電子ブック型研究データベースの利用とインターネットの利用(ネットニュース・電子メール・WWW・リアルタイムテレビ会議など)について実演を行った。参加者の関心や知識は様々であったが、概ね、WWWに強い関心が集まった。WWWとはカラー画像、音声、動画映像などをインターネット上で検索するオンラインデータベースシステム。今回は首相官邸やひまわり衛星写真などの一般的なサーバーにアクセスするとともに、宮崎大学サーバー内に借設置した学会データベースのモデルを公開した。これには当学附属中学校の生徒作品が登録されており、子ども達が描いたCG作品に世界中からアクセスすることができる。

討議ではプレゼンテーションをもとに活発な意見交換がなされ、データベースの性格として、以下の2種が提案された。

《学術研究用データベース》

学会誌掲載論文について、キーワードによりリファレンスと和文英文の両方による要約が検索できるものを構築する。よって、今後学会誌論文の投稿に際して和文英文の両方による要約とキーワードを添付することを学会理事会にはかかっていきたい。既刊分については今後検討していくことにする。

《美術教育普及用データベース》

一般のネットワークユーザーに美術教育の魅力、重要性を知ってもらおうとするもの。インターネット上のWWWデータベースは、グラフィック画面が最初に表示されるため誰でもが気軽にアクセスすることができる。最初から美術教育を銘打たず、一般のネットワークユーザーが面白そうな画面に行き当たり、情報を引き出しているうちにこれが美術教育であった、というような宣伝効果をもつデータベースを構築すべきではないかというものの。

その他、インフラ整備主張の必要性、電子会議応用の利点、子どもにとってのネットワークの重要性などが論議の中で指摘された。

第 17 回 美術科教育学会 和歌山大会での

情報発信コーナーへの参加者募集について

来る3月28～30日に開かれる第17回学会において、美術教育に関する様々な情報を学会員がお互いに気楽に交換しあえる場を、下記の要領で設けることにしました。学会員が一同に会する機会は年に一度の学会大会しかありませんから、個人ないしグループでそれぞれの情報を、能率的、効果的に発信したい人は、この機会を利用されるよう、ふるってお申し込みください。

- 期 日 3月28日(火)～29日(水)
- 時間帯 28日：14時頃～17時頃(28日の学会発表終了時)
29日：10時頃～14時頃(シンポジウム開始の1時間前)
- 場 所 学会会場(和歌山大学教育学部・専門講義棟)内の小教室または大教室のフロア(参加者の数により決定します。)
- 参加資格 学会員(賛助会員を含む)でかつ大会参加費払い込み者に限定します。グループの場合は当日のグループ責任者が学会員でかつ大会参加費払い込み者であることを原則とします。
- 条 件 1. 1名または1グループにつき、教室用学習机を2～3台お貸ししますので、これを著書・論文などの展示や販売などのために利用してください。
2. ビデオ、スライドなどのAV機器は用意しません。
3. 各コーナーの飾りつけ及び取り外しは、各自で責任をもって行ってください。パネル設置の可否はコーナーの周囲の状況によります。
4. 各コーナーの開設時間は上記時間帯の範囲内ならばいつでも可としますが、但し29日の昼休み時間には全コーナーに開設していただきます。
- 大会事務局よりのお勧め
学会に研究部会がいくつかできましたので、この機会を利用して、各部会で何らかの工夫をした存在アピールをされたらいかがでしょうか。少なくとも質問受付の場を提供されたらどうでしょうか。実行中の科研費・総合研究の宣伝も如何でしょうか。
- 参加費用 無料です。
- 参加の申し込みについて(大会事務局に郵送)

*参加に必要な提出物

1. 参加申込書：別紙の申し込み書に記入してください。
2. 官製葉書1枚：参加申し込み書の受領通知・連絡用。申し込み者(責任者)の郵便番号・住所・電話番号・氏名をご記入のうえ、同封してください。

*申し込み・問い合わせ先

〒640 和歌山市柴谷930 和歌山大学教育学部 美術教育研究室内

第17回美術科教育学会大会事務局(担当：長谷川哲哉・永守基樹)

☎0734-54-0361(内線5524、5535)

Fax. 0734-54-8882(教育学部庶務係・非専用につき宛先を明記のこと)

*申し込み受付期間：1994年3月10日(金)まで。(10日消印有効)

(長谷川哲哉 記)

「名簿と会計」関連

本部事務局会計担当 増田 金吾

昨年の8月に学会本部事務局をお引き受けし、今日までに主に名簿の管理と会計を担当して参りました。この間、皆様には色々ご迷惑をおかけしてきたことと思いますが、直接間接のご協力に感謝申し上げますと共に、引き続きご協力の程お願いいたします。

以下、名簿と会計についての報告と連絡をいたします。

1. 名簿関係

(1) 新入会員

春日 明夫、原田 修、降旗 孝、佐藤 昌彦、長谷川 昇

(2) 住所不明の会員

次の会員の住所がどうしても分かりません。ご存じの方はお知らせ下さい。

長井 肇、中松 満治、森本 昭宏

なお、住所等を変更された方は、葉書など文書の形で本部事務局・増田までご一報下さい。

2. 会計関係

(1) 会費納入について

学会通信などで重ねて連絡していますが、会費未納の会員は至急お振込み下さい。通信をお送りしました封筒の宛名ラベルの最下行に、各会員の会費納入状況（1994年11月10日現在）が記してあります。各自ご確認の上、未納の場合には、郵便局備え付けの「郵便貯金総合サービス」用の振込み通知票にてお願いします。

【口座番号】10050-64710321

【加入者名】美術科教育学会本部事務局 会計担当 増田金吾

なお、宛名ラベル最下行の【 】内の数字の意味は下記の通りです。

【93, 94】- 93年度分と94年度分が未納 6,000円 + 6,000円 = 12,000円

【94】- 94年度分が未納 6,000円

【94済】- 94年度分まで納入済 0円

その他の例 【93(2,000円), 94】- 93年度2,000円分と94年度分全部が未納
2,000円 + 6,000円 = 8,000円

(3) 会員資格について

たいへん残念なことですが、次のような方は退会して頂きました。

・1991年度分からの会費未納者の内、1994年5月10日付けで督促状を送ったものの、全く会費納入のない者。

・1992年度分からの会費未納者の内、本年9月30日付けで督促状（10月31日までに納入されない場合は、退会されたものと見做す旨を通知）を送ったものの、期日までに全く会費納入のない者。

上記で、郵便物が返送されてきたものはない。またこれらの人たちは、今回の役員選挙に際して、選挙人・被選挙人名簿に掲載されなかった。

退会などについては、学会の会則や細則で規定している。また、実施については第16回信州大会の総会でも承認され、具体的な方法については、本年8月の理事会で決定されている。